

1-(5) 早期成園化及び地域を支える労力補完体制の構築による 梨産地の維持

— 新梢管理の適正な実施と早期成園化につながる樹形導入による
改植後早期収量確保に向けた支援 —

1 活動のねらい

木更津市内の梨園においては、老木化の進行による生産量の低下がみられる。そこで梨の安定生産を目的に、早期成園化につながる改植後の若木管理技術の習得支援及び樹形導入支援を行った。

2 課題の背景

木更津市では、38戸21haの梨栽培が行われているが、高齢農家を中心として多くの梨園で老木の割合が高まり、収量の低下が顕在化している。一方で若手農家においては改植が比較的進んできているが、定植後の若木管理が適期に実施できていないことから、成園化が遅れている。

そこで、若手農家に対しては若木管理の適正な実施に向けて支援し、高齢農家に対しては今後行う改植に向けて早期成園化につながる樹形導入を支援した。

3 普及活動の経過

(1) 若木管理講習会

木更津市内の梨農家を対象に若木の早期成園化（早期収量確保）を目的として新梢管理講習会を行った。講習会では定植後5年以内の若木について、実習を交えながら管理方法を説明し、最後に参加した農家と質疑応答を行うことで理解を深めた。

また、併せて若木管理補助器具（3点支柱）の作り方に関する講習会を実施し、参加した農家は一人一つ作成をした。講習、実演のみでなく農家自身が自作したことによって深い理解につながった。

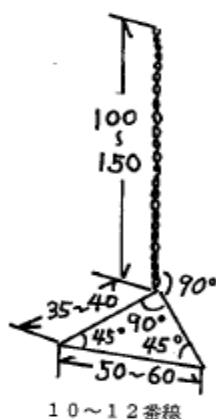


図1 若木管理補助器具（3点支柱）



写真1 自身のほ場で3点支柱を設置する農家

(2) 新梢管理事例視察

木更津市内梨農家7戸（うち若手梨農家1名）とともに、若木の新梢管理優良事例を視察した。視察先は市場出荷を中心とした経営で、新梢管理の適期実施に力を入れており、徒長枝の芽かき・摘心や枝の先端を立てる管理方法、主枝新梢の固定

頻度など具体的な管理方法及び管理時期について学ぶことができた。

(3) 早期成園化につながる樹形事例の視察

木更津市内梨農家 21 名（うち高齢農家 17 名）と早期成園化につながる樹形を導入している館山市の農家を視察した。視察先は 2 本主枝一文字仕立てを採用しており、予備枝の切り返し程度などの管理について学ぶことができた。

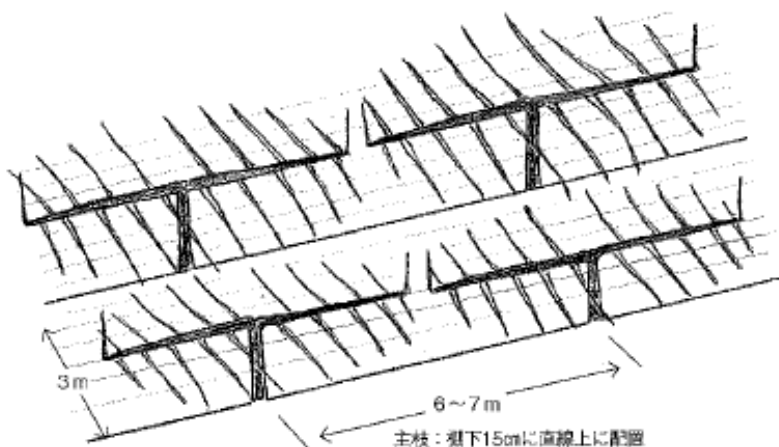


図2 2本主枝一文字整枝



写真2 園主から2本主枝の管理の特徴を聞く

4 普及活動の成果

(1) 若木管理講習会、新梢管理事例視察

講習会や視察の実施により若木管理の方法について理解が深まり、若木管理への意識が高まった。それにより主枝先端新梢の固定に取り組む農家が4戸増え、早期成園化に向けた若木管理の意識が高まっている。

(2) 早期成園化につながる樹形事例の視察

早期成園化につながる樹形を視察したことで、5戸の農家において慣行の3本主枝、4本主枝仕立てから2本主枝一文字仕立てへの改植が検討されている。

5 今後の発展方向と課題

若手農家において新梢管理の適期実施に向けた大きな課題は労力である。特に夏期の新梢管理作業の重要な時期に労力が不足している。そのため今後雇用導入による労力確保や新梢管理作業と競合する摘果作業の省力化につながる作業、花芽整理の実施に向けて支援を行いたい。

また、高齢農家においては、引き続き早期成園化につながる樹形導入を促すとともに、一部作業の共同化を検討し、労力補完の仕組みづくりを支援していきたい。

6 担当

南部グループ・中央グループ

7 協力機関

木更津市農業協同組合、農林水産部担い手支援課専門普及指導室